

『日々鍛錬～剣道を通じて学んだこと～』

福井県

敦賀市剣道スポーツ少年団

小学6年生 中本 慧 翔

「やったあ！」

心の中で歓喜し、僕は再び力を込めて竹刀を握り直した。応援してくれているチームメイト、先生方、育てる会の皆さん、そして父と母。みんなの泣き笑いの顔や、心身ともに充実したあの時の達成感を僕は絶対に忘れない。

今年五月に行われた道場連盟全国大会予選の三回戦。チームが勝利すると全国大会出場が決まり憧れの日本武道館に行くことができる大事な一戦だ。二対一、本数は五対三。勝負の行方が決まらない中、勝負は大將戦に持ち込まれた。六年になって大將を任されることが多くなった僕は、ひしひしと伝わる大將の重圧と物凄い緊張感に耐えることで必死だった。この勝負に負けたら全国大会に行けないかもしれない。今まで、共に頑張ってきたチームメイトに申し訳ない、と思えば思うほど体が強張ってきた。

「試合開始！」

腹の底から気合を入れて声を出した。ところが、相手の大將はなかなかのものだ。気合は十二分、グイグイと押されてくる。前に前に、とチームメイトの声が聞こえた。前に出て勝負をしたいと思いつつ、相手のペースにどんどん飲まれていくような気がした。僕は、今までの試合で一番長い二分間だと感じた。緊張感はもう無かった。全身全霊をかけて竹刀を振っていた。

無我夢中だったが、僕は

“自分の剣道、

“自分の形、

を自然体で発揮できるように、日々の稽古で意識し、実践してきた。このまま負けてしまえば、頭で考え過ぎて体が動いていない証拠であり、勝つことができれば、それをバネにして、なお一層自分を磨くことができるだろう。自分の剣道ができるまで、絶対に諦めないと誓ってから、決して楽ではない稽古を積み重ね、この身体に叩き込んできた。

「絶対に諦めない。絶対に！」

相手の大將の気迫を遥かに凌ぐくらい二倍も三倍も大きな声を出した。

「面あり！」

チームメイトや先生の歓声が聞こえた。試合の後の面の中は汗か涙か、区別がつかない状態だったが、きっと、汗は体の頑張り、涙は心の頑張りだったのかなと思う。

剣豪・宮本武蔵の「五輪書」に

「千日の稽古をもって鍛とし、万日の稽古をもって錬とす」

という言葉がある。

「鍛」は基礎定着までに三年

「錬」は完成形までに三十年

かかるということだ。僕の剣道の形はまだまだ途上にある。試合に勝てない日々もいずれやってくる

かもしれない。剣道以外のことでも当てはまると思う。しかし、ここで諦めていては鍛錬にならない。鍛錬とは「続ける」ことであり、ここぞという時に、歯を食いしばって耐えることであり、そして何よりも己に負けないことである。僕は、剣道を通じて、これらの事を日々実践し、一つの道を完成させることは、剣士として、人として、目標とすべきことだと考えている。目標を達成する中に剣道があり、そこには高い目標に向かって日々鍛錬する自分がいる。そのような人間になりたいと思う。

全国大会に向けて稽古に励んだ日々、次のステップに向けて心新たに頑張った日々。僕の鍛錬はこんな薄っぺらい内容だが、これからも剣道を続け、剣士として、人としての厚みをさらに増やせるよう、日々頑張っていきたい。